

「中国JGN-Xセミナー in 鳥取」を開催

～災害に強い情報通信技術の実現に向けて～



〔主催者挨拶〕中国超高速ネットワーク連絡協議会 相原座長



講演1 (独)情報通信研究機構 小村 専門調査員



講演2 (独)情報通信研究機構 若菜 企画室長



講演3 山口大学大学院 三浦 教授

中国総合通信局(局長:齊藤一雅)は、中国超高速ネットワーク連絡協議会(以下「協議会」)及び中国情報通信懇談会との共催により、「中国JGN-Xセミナー in 鳥取」を11月20日に鳥取市内で開催し、行政機関、消防機関、研究機関、ICT関連企業などから65名の参加がありました。

本セミナーは、(独)情報通信研究機構が構築・運用している「JGN-X」の周知・利用促進と、開催地の鳥取県が「鳥取大地震」の発生から70年の節目にあたることなどを踏まえ、「防災」をテーマに地域の防災活動におけるICTの利活用を促進することを目的として開催しました。

講演に先立ち、協議会の相原座長(広島大学 情報メディア教育研究センター長)が、「中国JGN-Xセミナーは研究開発の促進を目的に開催しているが、今回は「防災」をテーマに取り上げた。本日のセミナーが今後の皆様のICTの利活用に貢献できれば幸いです」と挨拶されました。

講演1の(独)情報通信研究機構の小村氏は、JGN-Xの概要説明後、鳥取県では鳥取情報ハイウェイ経由でJGN-Xに接続が可能であることから、県内の研究機関、企業等の利用促進を図るためのJGN-X利用方法について説明されました。講演2では同機構の若菜氏から、災害に強い情報通信ネットワークの実現として、無人航空機により無線中継し、通信リンクを確立する研究などが紹介されました。

講演3では山口大学大学院の三浦氏から、地域と力を合わせて開発を目指している防災情報提供システムの紹介があり、デジタルサイネージを利用した情報伝達システムなど興味深いお話をいただきました。最後に、講演4として鳥取県立図書館の小林氏から、図書館は地域で起こったことをアーカイブしていくことが使命であり、震災後には古地図や郷土史の閲覧希望が殺到した事例などが紹介されました。また、ビジネス支援にも取り組んでおり、図書館への相談がきっかけとなり商品開発に成功した事例も紹介されました。

中国総合通信局では、これからも地域におけるICTの利活用や研究開発を促進するため、様々な取り組みを行ってまいります。

☆『JGN-X』とは、新世代ネットワーク実現に向けた要素技術を統合した大規模な研究開発用テストベッドネットワークです。



講演4 鳥取県立図書館 小林 支援協力課長



セミナー会場の様子(左)と図書館の蔵書展示(下)



＜問い合わせ先＞中国総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課 082-222-3483